



発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL. (03) 291-5533  
編集 J.R.A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費24000円

## アラブ民族主義の 分解の構造と統一の展望

一九九〇年一〇月一〇日

ガルフ危機は、緊張の度合いを高めている。米帝軍でしかない「多国籍軍」が増強を続け、一〇月中旬には、陸上戦力配備の完了によつて攻撃体制が整うとされ、イラク攻撃の可能性が高まっている。一方、米帝は、イラク攻撃の合法性を国連レベルで取り付けようと、画策している。

他方、米帝軍の攻撃に備えて、イラクは、「人質」による牽制を行うとともに、反撃する意志を表明している。サッダム・フセイン大統領は、八月一二日のイニシアチブ（資料参照）を示しつつ、反帝・反シオニズムの姿勢を打ち

出すことで、アラブ反帝民族主義勢力、人民勢力を引きつけようとしている。

さらに、アラブ諸国の中、サウジに軍を派遣しているエジプト、シリアなどは、イラクへの攻撃には参加しないという立場を表明し、米帝の立場とは一線を画した。アルジェリア、パレスチナなどの諸国は、米帝の攻撃に対してもイラクを支持する立場を表明している。

米帝は、シリアにベーカー国務長官を派遣し、サウジへの兵力増強を要求したと見られる。また、この会談後、アサド大統領はテヘランへ飛び、対イラク封鎖の強化をイランに要請し、共

同声明において、クウェートからのイラクの撤退を第一とする立場を確認することで、対イラク包围の強化を計った。これまで、米帝は、「テロ支援国家」と規定するシリアとは敵対関係にあつたが、ガルフ危機をめぐって、シリアと米帝の共同が作られることになった。

反対に、反動王制の一つであるヨルダンは、イラクとの関係と、米帝との関係のなかで、ゆれ動きつつ、客観的にはイラクを支持する立場にある。九月中旬には、アンマンで、PFLPやDFLP代表などが参加して、アラブ人民勢力会議がもたれ、米帝軍の撤退を第一に要求して、イラク支持を持ち出した。そして、米帝がイラクを攻撃したら、世界中の米の施設を攻撃することで一致するなど、反米勢力としての立場を表明している（資料参照）。

イスラエルは、ガルフ危機を最大限利用しながら、反パレスチナのキャンペーンを行うとともに、ソ連からイスラエルへのユダヤ人「移民」の受け入れ拡大を計っている。さらに、ヨルダ

目次  
アラブ民族主義の  
分解の構造と統一の展望 ... 61

資料 ...  
・民族統一指導部アピール62号  
・第二回アラブ人民勢力大会最終声明（抜粋）  
・イラクの主張  
・第三世界への石油無料供給の提案  
・シリア＝イラン共同声明主旨  
・各主体の態度  
・赤軍声明

重要日誌（一九九〇年九月一日～一〇月一〇日）：  
編集後記 .....  
1615

このガルフ危機をめぐるアラブ民族主義内部の分裂には、東西冷戦構造の解体、とりわけソ連の立場の変化が大きな影響を与えていた。それは、帝国主義とシオニズムと鬭ううえでのソ連の存在というパワー・バランスの喪失を意味し、それぞれの諸国が、その独自の利害のうえで行動せざるをえない条件に置かれているということである。

反帝民族主義の立場を堅持していたシリアが、ガルフ危機に際しては、米帝および親米勢力と行動をともにし、帝国主義の軍事介入に反対する勢力と一線を画すようになつてゐる。さらに、九月一三日のベーカー国務長官のシリア訪問の後、九月二二日からのシリアのアサド大統領のテヘラン訪問とその共同声明に見られるようにイラク包囲陣型強化に動いている。

このベーカーとの会談では、レバノン問題とガルフ問題での協力、合意が作られたといわれていた。シリアは、ガルフにおける米帝の軍事介入を容認し、それに協力することによって、米帝から、レバノンに対するシリアの役割についての保証を取りつけたと思われる。

シリアのこうした動きの背景には、サッダム政権の強引なやり方ではアラブの破滅を導くと

一 アラブ民族主義の分裂の現状

今号では、アラブ民族主義の分解の歴史的位  
置と、性格の内容に焦点をあて、どのように、  
新たな統一作りが可能性として出てきているの  
かを見て、いきたい。

### 一 アラブ民族主義の分裂の現状

東西冷戦構造の解体は、アラブ民族主義の在  
り方にも変化を与えずにはおかなかった。とり  
わけ、イラクのクウェート併合に対し、米帝  
を軸とした帝国主義の軍事介入と外交展開は、  
「イラク対世界」という構図を作り上げている  
ように見える。とりわけ、ソ連が米帝と協調し  
て行動したことは、イラクの立場を決定的に孤  
立させるものとなつた。

アラブ民族主義内部においても、このイラク  
の行動へのアラブの対応の分裂した状態を作つ  
た。しかし、今回のアラブ民族主義内の分裂は、

いう危機感と、歴史的なサッダム政権との確執から、反シオニズム包围網のためには、米帝と協調しても、戦争の危機を緩和したほうがよいという読みがあつたものと思われる。また、アラブの安全保障体制を新たに作ることで、ガルフ危機後の方向を示そうとしている。

いずれにしても、この行動自身は、旧来の反帝か否かという視点からはとらえきれない構造になつていていることを示している。

ヨルダンは、累積債務危機で、IMF・世銀の介入によって、国内経済の不安が、政治的な問題となり、ヨルダン王制の存続の問題にまでなつていていた。それに対して、帝国主義との関係から、イラクを軸としたACCという経済プロックによって解決しようとしてきたし、イラクとの経済関係は、帝国主義に圧迫されているヨルダンにとっては、重要なものになつていて。また、政治的にも、一定の「民主化」を行つて国際的な不満を緩和し、さらに、より積極的に、パレスチナ勢力との関係を改善して、国内矛盾を緩和しようとしてきた。このために、イラク支持、反米の国内世論に逆らいにくい状態に置かれている。

クウェート併合問題で、米帝の立場に同調すれば、こうした政策がすべて否定的に作用して、フェイイン王制の崩壊にもなりかねない状態にある。これらが、現在のヨルダンの態度を規定している要素である。フェイイン王制は、七〇年代には、パレスチナ勢力を弾圧して延命してきた

ヨルダンなどは、実質的に、イラク支持の立場に立っている。

そして、人民レベルにおいては、イラク支持、米帝の介入に反対するという立場が、パレスチナ人民を含めて、非常に強いアラブ民族主義の高揚として見られることがある。これは、反イラクの立場をとる諸国の人民内部でも広範に存在している。

第三には、米帝軍を呼び入れたGCC（ガルフ協力会議）諸国（サウジ、UAEなどで、米帝と連動して生き延びる政策を明確にした勢力である。

とくに、ガルフ危機においての重大な変化は、これまで、外国軍、とりわけ、イスラエルの戦略同盟者である米帝を入れないというアラブ民族主義の建前が崩れ、二〇万人の米帝軍がサウジなどに展開するにいたったことである。

が、今回は、それとは違った条件が作られている。エジプトは、ACCとして、ヨルダンと同様に、イラクを軸とした経済ブロックのなかで、帝国主義との関係のなかで蓄積してきた累積債務による経済的危機を切り抜けようとしてきた。今回の事態のなかでは、イラクに反対し、サウジの防衛のために、シリアなどと共に軍を派遣している。

その根拠の一つには、イラクのやり方があまりにも強引すぎるため、中東を不安定にすることに歯止めをかけるということがある。さらに、ヨルダンとは違って、ムバラク政権は、国内世論を統制する力を持っているという条件もある。また、サウジ、米帝との協調のなかで、経済的にも援助を獲得できるという読みもあったと思われる。

サウジなどのガulfの産油諸国は、ACC、マグレブ連合などの経済ブロック以前に、GCCとして独自の経済ブロックを作り、反動王制として、産油国としての共通の利害から共同していた。これは、他のアラブ諸国との矛盾を作り出すものであつたし、ACC、マグレブ連合は、このGCCに対抗する非産油国、および非王制産油諸国のブロックとしてあつた。そこにシリアは、こうした状態のなかで、エジプトとの関係改善を重視し、ACCでのイラクのイ

の動きをしてきたこと、また、アラファト議長派などパレスチナの反シリア勢力を積極的に支援してきたことなどから、歴史的な対立関係にあつた。しかし、シリアは、キャンプ・デービッドに走ったエジプトに反対し、米帝に反対してきたことから、帝国主義の介入に反対するかと見られていたが、反イラクという点で、米帝との協調の方に動いた。

逆に、本来、親米反動国家であったヨルダンのフセイン政権が、イラクとのこれまでの経済関係、また、国内でのモスレム原理主義者を中心としたイラク支援の圧力の中で、米帝との明確な協調行動に踏み切れず、また、公然とはイラクを支持できないという立場に置かれている。米帝は、エジプト、シリアと協調しつつ、ヨルダンにゆさぶりをかけることで、反イラク包囲を強めようとしている。イラクは、パレスチ

ルを攻撃する可能性を国内的にキャンペーンして国内の反アラブ感情を高めている。それが一〇月八日のエルサレムのアル・アクサ・モスクでのパレスチナ人二人の虐殺を導いていったのである。さらに、米帝のイラク攻撃に連動して、イスラエルはいつでも行動する体制を作り上げている現状にある。

ソ連が、米帝と協調して、反イラクの立場を表明し、また、ショニストとの関係を深めているので、東西冷戦構造のなかで常識的であったアラブ民族主義内部の対立、矛盾の図式も変化

これまでの東西冷戦構造下の分裂とは違う様相を呈しているところに、特徴がある。

これは、第一には、これまで反帝民族主義の立場に立っていたシリアが、反シオニズムの戦略に変化はないが、米帝と協調した行動をとつて、イラクのクウェートからの撤退を第一とし、さらには、サウジに軍まで派遣したことである。また、ACC（アラブ協力会議）として、イラクとの同盟を結んでいたエジプトも、一転して、反イラクの立場に立ち、分解したことがある。

第二には、帝国主義の介入に反対して、イラクを支持する勢力である。アルジェリア、パレ

しかも、それへの反対においてアラブが一致したからか、エジプト、シリア、モロッコのアラブ合同軍が米帝軍と並んでサウジアラビアに展開するようになった。一方では、米帝の介入に反対する勢力は、イラクを支持している構造になつてゐる。

そして、さらに大きな変化は、反帝民族主義的立場をとつていたシリアが、エジプトと共に歩調をとつたのみならず、米帝と協調して、イラクに反対するという立場にたつたことである。もちろん、これまでも、シリアは、イラクとは対立関係にあつた。とくに、レバノン問題では、

二重構造に置かれた。反動を含めたアラブ民族主義が、反イスラエルの立場として形成されることになつたのである。

七三年の一〇月戦争を経て、一方では、ベトナム人民の反帝民族解放闘争の前進を背景として、アラブ反動王制を含めて石油投資法の民族化を計り、同時に、「石油戦略」を発動して、帝国主義に圧力をかけた。しかし、一〇月戦争の戦後処理をめぐって、エジプトが米帝の調停をのみ、いわゆるキャンプ・デービッド合意に踏み切つたことから、アラブ民族主義は三つに分解することになった。

エジプトは、イスラエルとの共存、米帝との公然とした関係を作り、アラブ民族主義から排除された。

他方では、リビア、シリア、アルジェリア、イエメン、PLOなどは、ソ連との関係を持つ反帝民族主義諸国、勢力として存在していたが、このエジプトの動きに対し、統一戦線を形成し、帝国主義とシオニストへの妥協を拒否する立場をとつていった。

アラブ反動王制は、エジプトの道を進むことは、王制の延命が困難になることから、アラブ民族主義内に止まり、反シオニストの立場を維持し続けた。しかし、実質的には、米帝との関係を強化していくた。

この分解は、非常に鮮明なものであった。

八〇年のイランのイスラム革命勝利とソ連のアフガニスタン介入によって、米帝は、中東での帝国主義的な権益を脅かされることになった。

そこで、シオニストと協同して、中東における反帝民族主義勢力の解体を計ろうとした。その一つが、八二年に起つたシオニストによるレバノン侵略であり、PLOを解体しようとしたのである。他方が、イラクによるイラン侵攻では、イランの立場を支援し、米帝と対決する構造となつた。

シリアは、PLOとともに、シオニストの侵略と闘い、また、イラクのイラン侵攻に対する非産油アラブ諸国を経済困難におしやり、また、サウジなどの産油諸国も、収入の減少によつて、経済的圧迫を受けるようになつた。

これらの要素は、アラブ内に、戦争よりも和平を求める傾向を拡大し、PLOのアラファト議長が、その立場を強めることになつていったのである。

そこで、シオニストは、アラブ民族主義国家は、帝国主義の軍事的巻返しに曝されることになつた。同時に、逆石油ショックによる累積債務の危機は、アルジェリアおよび非産油アラブ諸国を経済困難におしやり、また、シリアは、シオニストの介入による戦争の拡大を恐れ、イラクを押さえる側に回つた。イラクは、クウェートに対する主權の回復とシオニズムが、ガルフ危機のなかで、その方向へとさらに分解しているのである。

イラクは、クウェートに対する主權の回復とシオニズムが、ガルフ危機のなかで、その方向へとさらに分解しているのである。

PLOは、現在の東西冷戦構造の解体のなかで、帝国主義へのイラクの対決姿勢が、解放闘争としてのパレスチナ革命にとつては有利となる。政治的にはマイナスのイメージにもかかわらず、パレスチナ人、アラブ人民の大衆的に反対するという立場になつていつたのである。

ニシアチブに対して(反シリヤ包围網でもあつた)、分断を計る外交展開を行つていった。建前としては、現在の情勢においては、アラブの統一が重要であるということであつた。

ガルフ危機は、こうした枠組みそのものを決定的に解体し、米帝の軍事介入によって、より複雑な局面を作ることになつていつたのである。こうした状況を作り出した根拠は、第一に、東西冷戦構造の解体によって、ソ連の協調が実体化し、中東においては、ソ連は、反シオニスト闘争の支持者ではなくなつてゐるということがある。米ーイスラエル、ソ連ーアラブという力関係によるバランスの形成が不可能になつてゐるのである。

第二には、経済問題である。逆石油ショックによる原油価格の低下は、アラブ産油国の收入を激減させ、アラブ総体の経済的な波及効果が弱くなつたことに加えて、アルジェリアなどの産油国を含む他のアラブ国が、累積債務の圧迫を受けていること。つまり、帝国主義との経済関係が債務として形成され、IMFー世銀などの形をとつた帝国主義の介入によって、経済危機にみまわれることになつたのである。

イラクは、産油国でながら、八年間にわたるイランーイラク戦争によって疲弊し、その再建が問われていた。しかし、石油価格の低下によつて、とりわけ、GCC諸国とのOPEC協定違反によって、より困難に直面した。

第三には、九二年の欧州の統合市場化である。歐州という地理的にも近い関係にある帝国主義

がブロック化することに対しても、アラブ諸国内でもブロック化を行い、より、アラブ自身としての解決が必要とされているということである。この構図は、ソ連などの後盾のない第三世界と帝国主義との矛盾という構造を前面に押し出すことになっている。それはまた、アラブ内においては、豊かな産油王制国家と、貧しい非産油アラブ諸国との矛盾でもあつた。

パレスチナ蜂起は、これらの矛盾を反シオニズムのアラブ民族主義としてつなぎとめる役割を果たしてきたのである。しかし、今回のガルフ危機は、パレスチナ蜂起を後方に押しやり、帝国主義の軍事的介入によつて、その矛盾が一挙に現われる構造を作つていつたのである。

二 アラブ民族主義の分解の歴史的位置

現在のこの矛盾を歴史的にみていくことによつて、アラブ民族主義は、オスマン・トルコの支配に抵抗するものとして登場した。帝国主義の介入に対しても、第一次大戦を経ながら、アラブ民族が帝国主義の力を借りてトルコの植民地支配と闘つた時代から始まつてゐる。そこには、反帝という立場は存在していなかつた。人民的勢力の登場がなかつた時代である。

英仏帝国主義は、反トルコ闘争であるアラブの反乱を支援するという形で、逆に、アラブの分断支配を行つた。帝国主義の列強によるアラブ支配が行われたのである。この時代に、アラブ民族主義は、帝国主義の植民地支配との闘争

がブロック化することに対しても、アラブ民族主義の悲願であった植民地支配からの解放は、イスラエルの存在によって、実現がさらに遠のくことになつたのである。当然、アラブ諸国は、この戦後処理を拒否し、イスラエルの存在を承認せず、軍事的にも解体させようとしてきた。ソ米の冷戦時代への突入は、アラブに新たな力関係を与えた。米帝がイスラエルを支援するのに対しても、アラブは、ソ連との関係を強めるところになつた。とりわけ、アラブ内においても、反イスラエル闘争で無能ぶりを示した王制を打倒し、アラブの統一、解放、社会主義を掲げるソース主義や、ナゼリズムの登場によつて、ソ連を後盾としつつ、反シオニスト闘争を闘う位置が作られてきた。そして、それは、実体として、反帝民族主義の位置を持つようになつた。六七年の六月戦争の敗北のなかで、新たにパレスチナ革命勢力が、反イスラエルの武装闘争を掲げて、重要な勢力として登場した。より鮮明に、反帝・反シオニズムの立場を打ち出すことによって、アラブの民族解放闘争を推進することになつた。反動王制も、自らの延命のためにも、反イスラエルの立場を表明しなければならない。

これまで、ソ連、東欧とは反帝の立場で共同

三 このような分解状況のなかで、どのような

にして、アラブ民族主義の再生をかちとり、帝國主義の軍事介入を阻止していくのか？

アラブ民族主義は、そのコンセンサスとして、反シオニズムが根底にある。今回のイラクによるクウェート併合は、そこに分解を持ち込んだ構造となっている。

情勢的にも、現在の米帝とイラクの対峙がどこまで続くのかという点での見通しを立てることは不可能な現状にある。それは、第一に、イラクがクウェート併合を放棄する意志がないうえに、仮に、放棄すればサッダム・フセイン大統領自身の政治生命が断たれるだろう。

第二に、米帝は軍事的解決をめざしているとしても重事的にも多大な損害を受けることは明確である。さらに、米帝からの攻撃は、アラブ民族主義内の分解を、急激なアラブの大同団結へと向かわせることになる、米帝の直接的な支配を可能とする条件を失ってしまうことになる。イラクは、「人質問題」を使って、軍事攻撃を牽制しつつ、米帝内での矛盾が起こるのを待っている。その立場で、長期的対峙を続ける可能性が高い。

その対峙戦において、米帝側は、有利に展開するためには、シリア、ヨルダンを引きつけておくことであり、それは、イスラエルに手を出させないようにすることである。これは、逆に言えば、シリア、ヨルダンの動きが現在の情勢

危機とを連関させることを拒否している諸国と国連安理会諸国を彈劾することを明らかにする。同時に、こうした国連安理会決議に対するキュバとヨルダンの立場を称賛する。また、イラクとの連帶会議をアンマンで開催したAPFC（アラブ人民勢力会議）を称賛し、同会議が決定を実行し、この実験を世界中に敷衍するよう呼びかける。

大衆の皆さん。この特別な時期に、イスラエルの残酷な占領当局は、ブレイジ・キャンプでのイスラエル予備役兵士の死（編注・九月二〇日）を口実に、長く狙ってきた計画を実行するべく、ブレイジ・キャンプとキャンプ住民に対する大規模な攻撃を開始した。その結果、現住む場所を追い出され、打擲され、家財を破壊され食品をだめにされた。

そこで、我々は、敵の獣虐さと圧政に対して、断固立ちむかい、二倍にして反撃しているガザの英雄の皆さんにあいさつを送る。我々は、再度、国際社会と西欧諸国の領事達に対しても、この残虐性を弾劾すること、無防備のパレスチナ人と連帯して、パレスチナ人に国際的保護を与えるよう呼びかける。

攻撃部隊と石を投げる皆さんに要請する。我々の独立国家の全土に完全な主権を打ちたてる政策に基づいて、統一指導部は以下を再確認する。

の鍵を握っているということでもある。また、イスラエルの動向も、重要な要素となっている。

シリアとヨルダンが米帝に反対する立場に立てば、米帝のイラク包囲網は解体する。また、反動王制自身が、アラブからの支持を受けられなくなることは、その終焉を意味する。シリアが転換することは、アラブ反動の動搖を作り出す。

いずれにしても、ガルフ危機は、帝國主義の冷戦構造解体以後の在り方を示すものとしてある。

解決のための第一条件は、まず帝國主義が撤退することである。アラブ内でのそれらの利害から分解状態を作っているが、これは、帝國主義の介入を有利なものにして帝國主義を撤退させ、また、イラクのクウェート併合を同時に解決するためのアラブとから、平和的な解決が困難になつてゐるのである。

シオニストのエルサレムでの二三人虐殺は、イスラム、そしてアラブ・パレスチナの歴史に残る重大な出来事と重なつてゐる。つまり、植民地主義軍が、イラクの子供たちへの食糧封鎖実行に加担しているダマスカスとカイロの疲弊しを、それを再度阻止するか、もしくは、アラブ国家自身を消滅させようと画策している。

この問題に関して、我々民族統一指導部（以降、統一指導部と略）は、不正な国連決議採択たな米帝軍の介入に反対する内容を作っていく。農民に対して価格の固定と、種子の格づけを呼ぶかけたナブルスの統一指導部が発表した声明を讀める。加えて、奉仕委員会に要請する。オリーブ採取の時期なので、参加しよう。とにかく、「ジエド」に捕えられている被拘留者の両親を支援しよう。

農民は、学校当局と共に、自らの責任を果たすための委員会を結成しよう。

五、農民について

農民に対して価格の固定と、種子の格づけを呼ぶかけたナブルスの統一指導部が発表した声明を讀める。加えて、奉仕委員会に要請する。

六、攻撃部隊について

ファタハ青年運動とハマスが共同声明を発表したが、これは、正しい道への一步として歓迎する。そして、すべての攻撃部隊の隊員に対する活動を実行しよう。また、パレスチナ人の血をパレスチナ人の手によって流さない、内部の衝突を禁止し、武器を使用しないとする我々の誓約を守りぬこう。この意味で、大衆を防衛し、U.N.R.W.Aや赤十字などの国際機関の車輌を徴収するとか）などを防止する安全委員会を、

共同で設立しよう。

今月の統一スローガンを、以下にしよう。

「勝利まで、統一指導部を。対イラク封鎖を解除させることは、民族的、汎アラブ的義務である。帝國主義・シオニストの陰謀に対する我々の側の統一を強化せよ。パレスチナの旗は、自

だろう。

アラブの枠組みで解決していく方向に向けて、帝國主義、米帝軍の介入と、長期的駐留策動に反対する闘いを強化していくことが問われている。とくに、日本の進歩勢力は、自衛隊派兵策動を阻止して、米帝にまったく追随した政策を出していく鍵になつてゐる。

帝國主義の軍事介入に反対する闘いを、国際連帯として作り出していくことが、冷戦構造解体後の構造の中で、新たに反帝のコンセンサスを作り出している。日帝の策動と対決していくことが問われている。各国における進歩勢力が、帝國主義の軍事介入に反対する闘いを、国際連帯として作り出していくことが、冷戦構造解体後の構造の中で、新たに反帝のコンセンサスを作り出していく鍵になつてゐる。

## ●民族統一指導部アピール六二号

### 資料

一、労働のレベルについて

統一指導部は、労働者組合総同盟に呼びかけた。早急に、パレスチナ国家における労働者と労働の性格に関する基礎（賃金、労働時間、保険など）と諸規律を盛りこんだ国民労働憲章を作成しよう。また、パレスチナのすべての工場、会社などは、この諸規律に従おう。

二、会社と機関について

我々は、工場、会社所有者に要請する。グリーン・カードを持つ一定数の労働者を臨時に雇用して、国民的負担を共同して欲しい。統一指導部は、この実行を監督するだろう。また、帰還者の諸資格と要求調査に向けられた努力を讃え、この調査を行つてゐる民族機関と共同することを、帰還者の皆さんに訴える。

三、弁護士について

弁護士の皆さんに呼びかける。相互に協力して、被拘留者の両親がもつと容易に弁護士と接觸できるよう、コンピュータを設置した弁護事務所を被占領地に開こう。また、インティ

ファーダ関連、その他の別の事件についての弁護事務所を被占領地に開こう。また、インティファーダ関連、その他の別の事件についての弁護事務所を被占領地に開こう。また、インティファーダ関連、その他の別の事件についての弁護事務所を被占領地に開こう。また、インティ

ファーダ関連、その他の別の事件についての弁護事務所を被占領地に開こう。また、インティファーダ関連、その他の別の事件についての弁護事務所を被占領地に開こう。また、インティ

## 七、社会レベルの問題について

この米・西欧植民地主義者の侵略の動機は、クウェート防衛とか、少しも危機に曝されていないあるガルフ諸国やアラビア半島の諸国を防衛するとかとは、まったく無関係である。逆に、アラブの油田を占領し、アラブ民族の再生と前進、アラブ民族の主権と聖なるモスクの防衛、アラブの石油は、アラブ全員のためのみにあるとのスローガンを実行しようとするのに貢献するのである。石油を、アラブが武器として利用するのを阻止することが目的である。また、この侵略は、我々が二一世紀を迎えるとしており、独统一を迎える、日本の興隆、一九九二年の統一歐州市場の誕生の計画などを考慮するとき、人類総体の未来をも支配しようとするものだ。さらに重要なことは、イラクがガルフ戦争を停止して以来全力で進めてきたアラブ統一、文明的な諸計画を妨害することを狙つたものである。

の野望に對決する確固とした人民的不退転の立場にとつて、眞の戦略的基盤として登場し始めたあるアラブの国を破壊することは明確である。また、数十年間労働し、ホスト国の再生に主導的な役割を果たしてきたヨルダン人、パレスチナ人を、ガルフのある国々が追放し始めたことに見られる危険な兆候に注目する。そして、歐米のマスコミが、PLO、ヨルダン、アルジェリア、イエメン、チュニジア、モーリタニア、スー丹、リビアがガルフ危機に対するアラブによる解決を固執し、米、NATOの侵略軍に派兵するのを拒否していることに対する、憤激のキャンペーンを張つているのと呼應して、アラブにも同様のキャンペーンを行うマスコミがある。世界中のモスレムに呼びかける。メッカと地中海の聖なるモスク、そして、預言者モハメドの墓を米の汚辱から防衛するために、銃をとつ

ンクさせている。  
アンマンに「アラブ人民勢力汎アラブ常任委員会」を設置する。当面は、ヨルダンの民主的構成されてから、汎アラブ委員会がその役割を実行し得るように、統一した行動計画と規約の草案を起草する任務を負うこと。さらに、この汎アラブ委員会は、早急な行政的な目的とともに、汎アラブの恒常的な戦略目的を掲げる。それらは、  
一、帝国主義—シオニストによるアラブ民族に対する侵略と対決して、大衆のすべての潜在力を動員するために、汎アラブのレベルで結成される人民委員会の活動を調整すること。  
二、人民委員会組織化と人民委員会活動調整の経験を交流すること。

アラブの枠組み（アラブ連盟）で、新ガルフ危機を解決する機会が存在しており、イラク指導部は、クウェートとの問題を平和的に解決する努力を惜しまなかつた。だが、米が支援する疑わしい頑固さゆえに、それは、アラブ地域に直接的に再度存在するという陰謀を米が持つていたからだが、事態を複雑に、かつ後戻りできないまでに悪化させたのである。

歐米の巨大な軍事力量集積は、イラクに対す封鎖が、このように迅速に行われたことと合わせて考えると、この攻撃的軍隊の目的は、アラブ世界の潜在的転換点にとって、そして、ユダヤ人移民が激化させたシオニストの領土拡張の野望に対決する確固とした人民的不退転の立場にとつて、真の戦略的基盤として登場し始めたあるアラブの国を破壊することは明確である。

また、数十年間労働し、ホスト国の再生に主要な役割を果たしてきたヨルダン人、パレスチナ人を、ガルフのある国々が放逐し始めたことに見られる危険な兆候に注目する。そして、歐米のマスコミが、PLO、ヨルダン、アルジェリア、イエメン、チュニジア、モーリタニア、スー丹、リビアがガルフ危機に対するアラブの解決を固執し、米、NATOの侵略軍に派兵するのを拒否していることに対して、憤激のキャンペーンを張つてゐるのと呼応して、アラブにも同様のキャンペーンを行うマスコミがある。世界中のモスレムに呼びかける。メッカとメーディナの聖なるモスク、そして、預言者モハメドの墓を米の汚辱から防衛するために、銃をとつ

立ち上がる。人種差別主義と隸属に抗する世界中の自由の戦士たちに呼びかける。イラクとイラクの子供たちに対する米の侵略と野蛮な封鎖を弾劾する声を強大にしよう。なぜなら我々は同一の原則を共有し、自由は分割できないものだからである。

壊滅的な結果がイラク、ガルフ、中東のみならず世界中に及ぶであろうような破壊的戦争を止めることを、拒否する。サッダム・フセイン大統領が八月一二日に打ち出した和平イニシアチブを支持する。このイニシアチブは、中東、すなわちパレスチナゴラン高原からの撤退とガルフとをリンクさせている。

アンマンに「アラブ人民勢力汎アラブ常任委員会」を設置する。当面は、ヨルダンの民主的汎アラブ党が、この常任委員会の役割を果たし、すべてのアラブ国が参加する汎アラブ委員会が結成されてから、汎アラブ委員会がその役割を実行し得るよう、統一した行動計画と規約の草案を起草する任務を負うこと。さらに、この汎アラブ委員会は、早急な行政的な目的とともに、汎アラブの恒常的な戦略目的を掲げる。それらは、

一、帝国主義・シオニストによるアラブ民族に対する侵略と対決して、大衆のすべての潜在力を動員するために、汎アラブのレベルで結成される人民委員会の活動を調整すること。

二、人民委員会組織化と人民委員会活動調整の経験を交流すること。

# 第一回アテナ人民勢力大会最終声明（反対）

PLO・統一指導部 パレスチナ国にて  
一九九〇年一〇月一日

1990年12月6日 第61号

## 七、社会レベルの問題について

社会、婦人委員会に呼びかける。殉教者や被拘留者の家族の面倒をみよう。また、結婚や、持参金などの社会的問題について、その最高額の提案を行おう。この提案は、討議に付され、将来的には、人民的な国法に高められていくよう、関連した人々が採用していくようにしよう。そして、関連者に呼びかける。家を追われた家族が自宅にもどる原則、追放命令は本人のみを対象とする原則を守ろう。また、服装については、ベールを被った婦人を尊敬するが、実力やテロ的やり方でベールを被らない婦人にペールを強要することを拒否する。この問題に関してもは、公共の倫理の許す範囲内で個人の判断の自由を維持することを、統一指導部は固執する。

A 今月は、パレスチナの旗の月とみなされるので、すべての場所にパレスチナの旗を掲げ壁や、車輛や、あいさつ状や、結婚式の招待状にもパレスチナの旗を描いたり、印刷したりしよう。

B すべての部署の攻撃部隊は、それぞれの方法をもって、ハマスのメンバーとの共同にによる闘争強化の日を設定すること。

C 一〇月四日の木曜日は、イラクの子供たち、家を追い出されたブレイジ・キャンプの子供たちとの連帯の日。抗議デモをやり、婦人の座り込みをやろう。

戦闘的な人民大衆の皆さん。聖地で、パレスチナ人が占領当局に苦しめられ、パレスチナのアイデンティティを奪う策動に対峙している時に、アラブの地に離散させられたパレスチナ人は、あるアラブ諸国の政府によって追い出されている。さらに、エジプトとガルフのマスクミニの一部には、帝国主義者による侵略、支配搾取に、植民地権力ではなく、パレスチナ人が責任の一端を負うとでもいうような悪意に満ちたキャンペーンをするものが存在している。こうした諸政権は、パレスチナ人民に対する義務を放棄し、パレスチナ人を抑圧、差別するのにこの機会を待つて口実にしているかのようだ。だが、我々は、自由と独立、民族自決の権利獲得、いかなる条件下であろうとも占領拒否という原則に確信をもっている。我々は、勝利の被拘留者との連帯のため。

ル収容所（最近、一四人が負傷させられた）の被拘留者との連帯のため。戦闘的な人民大衆の皆さん。聖地で、パレスチナ人が占領当局に苦しめられ、パレスチナのアイデンティティを奪う策動に対峙している時に、アラブの地に離散させられたパレスチナ人は、あるアラブ諸国の政府によって追い出されている。さらに、エジプトとガルフのマスコミの一部には、帝国主義者による侵略、支配権取に、植民地権力ではなく、パレスチナ人が責任の一端を負うともいうような悪意に満ちたキャンペーンをはるものが存在している。こうした諸政権は、パレスチナ人民に対する義務を放棄し、パレスチナ人を抑圧、差別するのに、この機会を待つて口実にしているかのようだ。

だが、我々は、自由と独立、民族自決の権利獲得、いかなる条件下であろうとも占領拒否という原則に確信をもっている。我々は、勝利の日まで、殉教の日まで、自らの原則、聖なるモスク、遺産を堅持する決意だ。我々は、破壊されるかもしれないが、決して、敗北しない。

ガルフから大西洋までのアラブの同胞よ。これは、運命と威敵をかけた戦闘である。ここパレスチナでは、パレスチナ人の子供たちは、アラブの油田と金では達成できなかつたことを、自らの英雄主義と犠牲をもつて達成しようとしている。この聖地で、新しいアラブ人が育まれている。この新しいアラブ人は、祖先の栄光を堅持し、名譽ある未来を掴み取ることに全靈をかけている。

三、民主的過程を作り、すべての場所でのアラブ人の人権を擁護すること。

四、ガルフとパレスチナにおける米—シオニストの侵略に対決して、アラブ大衆を統一すること。

五、イラクを帝国主義—シオニストの脅威から防衛し、封鎖の陰謀を打ち破ること。

六、PLOとインティファーダへの支援を拡大し、シオニストの脅威と米の圧力に曝されているヨルダンと連帯すること。

当面の実行目標は、

・「イラクの子供たち」と命名したアラブ・カンパ基金を設立する。

・全言語でのパンフを出版し、アラブ民族の問題を、特に西欧に宣伝する。

・米がイラクへの軍事侵略に出たら、即刻、可能なかぎりのすべての手段をもって、すべての場所での米権益への攻撃を開始する。

・毎月、米によるナジドとヒジャズの占領を弾劾して、大衆的デモを行い、米、ガルフ諸国、今回の侵略に加担した諸国の旗を焼く。

・アラブ人民による米製品ボイコット・デモを設定する。

・今回の侵略に加担した諸国の大使館への抗議デモ・デーを設定する。

・中東の諸問題に関するアラブのとらえ方を説明するアラブ—欧州対話セミナーを開催する。

・ナジド、ヒジャズ、そして他のガルフ諸国に活動員、配置されたアラブ兵士にむけ、自國の指導部の決定に反対し、米の命令を拒否するよう

訴える定期的な声明を発表する。

## ● イラクの主張

① サッダム・フセイン大統領の中東和平維持イニシアチブ

米国は、人間性と地域の人民に敵対する自らの行動の口実を作ろうとして、イラクへの経済によって分割された部分を再結合させるなどを決定したので、米国は、口実を失った。第一次大戦まで、クウェートは、イラクの属領であり、イラクは、現在に至るまで、植民地主義が犯した犯罪を承認していない。イラクのサウジアラビアに対する脅威を相殺するとの口実をもって、米は艦船、軍用機を大量に集結させ、戦争の雄叫びを上げだした。もし、戦争に火をつけられたら、多くの人々は焼かれ、前代未聞の悲しみが襲うであろう。この単純明快な事実を国際世論、特に西側世論に対して明らかにし、人民の大義と権利を支援し、安全を維持し、西側の利益を維持するだけとの米の口実に挑戦するために、この地域で占領問題とされている全問題を、国連安保理が定めた同一の基盤と原則に基づいて解決することを提案する。それは、一、即時無条件という同一の原則に基づいて、イスラエルが、占領しているパレスチナ、シリ

アラブがレバノンから撤退し、イラクとイラン間も撤退することにむけて、調整がなされるべきである。クウェートの件も、同様に調整されるべきである。

上記のすべての問題に関連した基盤と原則が適用されるべきである。その計画の実行は、最も最近行われた「占領」に関する安保理と国連が採択した決議の実行によって、最も早く行われたものに対しては、安保理は、イラクにどったと同様の措置をとるべきである。

二、事態を收拾するというだけの目的で、米を実行せず、もしくは、その調整に応えなかつたものに対しては、安保理は、イラクにどつた

のどのような望みや圧力にも影響を受けないで、國際世論に対しても、サウジアラビアから米軍ながらにすべての軍隊が撤退することを我々は提唱する。国連事務総長の援助を受けて国連安保理は、アラブ軍の構成国籍、任務、配置場所を排除するなら、アラブ軍の国籍は、イラクと

米の陰謀の支持基盤となっているエジプト軍に配備されるべきである。アラブ民族に敵対する米の陰謀の支持基盤となっているエジプト軍を排除するべきである。

三、イラクへのボイコットと封鎖に関するすべての決定は、即時凍結されるべきであり、経済、政治、科学に関するイラクと世界中の諸国とのすべての問題は、通常に復帰させるべきで

ある。ボイコット、封鎖の決定は、前出の項目一、二、三に違反するものに対してのみ検討、適用されるべきである。

米と、その矮小な手先どもがこのイニシアチブに応えない場合、我々と、アラブ民族の善良な人間、そして偉大なイラク人民は、米の悪意と侵略的陰謀に対し、強力な抵抗をするだろう。神の加護を受けて、我々は勝利するだろう。悪業を行う者は、撃ち負かされ、失望させられ、弾劾されて、この地域から駆逐されるのが定めだ。

神は偉大なり。卑劣な者どもに屈辱が下るであろう。

サッダム・フセイン

西暦一九九〇年八月一二日

イスラム暦一四一年ムハッラム一二日

## ● 第三世界への石油無料供給の提案

(題は編集部がつけました)

慈悲深き神の御名において  
第三世界の兄弟たち、指導者、人民の皆さんに平和がありますように

強大で発展した諸国は、我々と皆さんを第三世界と呼ぶことによって、彼らと我々とを隔てる科学と技術のギャップ、そして、まず第一に帝国主義諸国が責任を負っている総体的な経済発展ギャップを規定してきたのみではない。中東の産油国に侵略し、モスラムの聖域であ

るナジドとヒジャズを犯した者どもは、自らの下劣な行動を問うことでも、それが第三世界に及ぼした害について説明もしなかった。この危機から、石油独占は、ぼろ儲けをしているのに、第三世界諸国は、足元をすくわれているのに任せている。奴らの犯罪によって石油価格が第三世界の経済ではもはや耐えられないほどに高くなつたからである。もし石油が減り、または、必要を充たせなくなつたら、皆さんが重大な災害に見舞われようとも、皆さんは、強大で発展した諸国が残した余剰しか入手できないであろうことは、絶対に確かである。

この評価により、また、皆さんとの兄弟的な連帯の精神から、皆さんと同様の条件と運命を分かつ我々イラクとアラブ民族は、米、シオニズム、その衛星諸国との標的にされたのである。この基盤にたつて、我々は、過去一貫していかなる時にも皆さんとの連帯を示してきた。我々は、一九七九年、ハバナで開催された非同盟諸国会議において、皆さんへの兄弟的な連帯の感情、そして、主要にはパレスチナ問題である行為から利益を得た諸国は、我々の寛容な運命的なアラブの問題に対する皆さんとの公正な態度を認識するところから、今日、我々は皆さんとの兄弟であり、皆さんと同じ運命を共有しております。

慈悲深き神の御名において  
第三世界の兄弟たち、指導者、人民の皆さんに平和がありますように

アーレバノンの全アラブ領土から撤退し、シリヤがレバノンから撤退し、イラクとイラン間も撤退することにむけて、調整がなされるべきである。クウェートの件も、同様に調整されるべきである。

上記のすべての問題に関連した基盤と原則が適用されるべきである。その計画の実行は、最も最近行われた「占領」に関する安保理と国連が採択した決議の実行によって、最も早く行われたものに対しては、安保理は、イラクにどつたと同様の措置をとるべきである。

二、事態を收拾するというだけの目的で、米を実行せず、もしくは、その調整に応えなかつたものに対しては、安保理は、イラクにどつた

のどのような望みや圧力にも影響を受けないで、國際世論に対しても、サウジアラビアから米軍ながらにすべての軍隊が撤退することを我々は提唱する。国連事務総長の援助を受けて国連安保理は、アラブ軍の構成国籍、任務、配置場所を排除するなら、アラブ軍の国籍は、イラクと

米の陰謀の支持基盤となっているエジプト軍に配備されるべきである。アラブ民族に敵対する米の陰謀の支持基盤となっているエジプト軍を排除するべきである。

三、イラクへのボイコットと封鎖に関するすべての決定は、即時凍結されるべきであり、経済、政治、科学に関するイラクと世界中の諸国とのすべての問題は、通常に復帰させるべきで

アーレバノンの全アラブ領土から撤退し、シリヤがレバノンから撤退し、イラクとイラン間も撤退することにむけて、調整がなされるべきである。クウェートの件も、同様に調整されるべきである。

上記のすべての問題に関連した基盤と原則が適用されるべきである。その計画の実行は、最も最近行われた「占領」に関する安保理と国連が採択した決議の実行によって、最も早く行われたものに対しては、安保理は、イラクにどつたと同様の措置をとるべきである。

二、事態を收拾するというだけの目的で、米を実行せず、もしくは、その調整に応えなかつたものに対しては、安保理は、イラクにどつた

のどのような望みや圧力にも影響を受けないで、國際世論に対しても、サウジアラビアから米軍ながらにすべての軍隊が撤退することを我々は提唱する。国連事務総長の援助を受けて国連安保理は、アラブ軍の構成国籍、任務、配置場所を排除するなら、アラブ軍の国籍は、イラクと

米の陰謀の支持基盤となっているエジプト軍に配備されるべきである。アラブ民族に敵対する米の陰謀の支持基盤となっているエジプト軍を排除するべきである。

三、イラクへのボイコットと封鎖に関するすべての決定は、即時凍結されるべきであり、経済、政治、科学に関するイラクと世界中の諸国とのすべての問題は、通常に復帰させるべきで

神は、善き意図の支持者である。  
皆さんの兄弟サッダム・フセイン

イスラム暦一四一年サファル月一〇日  
西暦一九九〇年九月一〇日

一九九〇年九月二五日

## ●シリア－イラン共同声明主旨

イラクによるクウェート占領は、地域の安全と安定を脅かし、外国がガルフに存在するに必要な口実を与えた。両国大統領は、クウェートからのイラクの無条件撤退の必要性と、クウェートの独立、国家主権、政府の回復の必要性を強調した。ガルフ危機解決にむけたいかなる解決案も、ガルフでの紛争と戦争を回避するため、イラクのクウェートからの無条件撤退を土台にしたものでなければならない。

ガルフ地域の諸国と人々の安全と安定にとって、地域の諸国が参加した地域的安全保障体制を樹立することが、最も良かつ最もうまくいく方法である。両国大統領は、ガルフ地域の危険は、イラクの侵略と、外国の存在を除去することによって回避できると確信する。

イランとアラブ諸国は歴史的な、かつ、イスラムの価値で結ばれてきた。イランとアラブ諸国の強力な協力関係は、双方の利益、独立、主権を外国の介入から防衛する保証となるだろう。

## ●各主体の態度

①新しい世界秩序（抜粋）  
IRAAN PHOBBLACHT 共和国ニユー

ス一九月一三日号

今年初期に、スター・リン主義とワルシャワ条約の事実上の解体があり、ウォール街では、作

「共産主義に対する資本主義の勝利」と大歓迎されたが、これは、現在ガルフで展開されているランボー戦術とおおいに関連している。國務長官ベーカーは、米国が「世界の唯一の超大国である」と実際にも主張し、「ガルフオ」なる名前を頂戴している。

だが、米のプロパガンダの影には、ガルフの敵意に対するワシントンの深い恐れが存在している。世界権力としての米の未来は、サッダムをクウェートから駆逐する力量にかかるており、その展望は、過ぎるにつれ、暗くなっている。すでに、世界有数の経済大国内部で、深刻な分裂が発生している。

それらの分裂は、EC内で起り始めており、ECのジャック・デロール委員長が西欧を単一の経済に再編しようとして努力しているが、週末に敗北を喫している。その分裂の主要な理由は昨年の東欧での政治的激動である。だが、ガルフ危機が、デロールの抱える問題をさらに悪化させることになっている。彼が二六ヵ国で欧洲計画に臨もうとしているのに對して、NATOは、ガルフにおける米の戦争計画にアイルランド政府を引きずりこもうとしてますます圧力を

を加えている。

将来、決着がつきそうだ。ブッシュの軍は、一〇月一五日には態勢が整う。以降は、その気になれば、攻撃するだろう。現時点では、戦争ヒステリーは、米国内で最高潮だが、クリスマス休暇が近づくにつれ、弱まりそうだ。

ブッシュから見て次の重要な日程は、一月六日である。これは、米の中間選挙である。下院議員全員、上院の半数の議員、多数の知事が選舉に臨む日である。ブッシュは、それまでに、イラクに大打撃を与える必要に迫られている。現在の行き詰まりが継続すれば、ブッシュは、国内選挙で大きな問題に直面しそうだ。

増税しないとの公約を破り、貯蓄・ローンのスキヤンダルがマスクミを賑わせていたことから最近までブッシュの人気が落ちていたが、イラクに対する強硬姿勢から、七五%もの支持を獲得するに至った。

この支持も、もし米兵の被害者が米に運ばれ始めたらとたんに下がるものであろう。ブッシュの將軍の推計でも、二万から三万の米兵が死ぬだろうとされており、他の専門家は、もっと高い被害を見込んでいる。たとえ、低いとしても、この紛争では、ベトナム戦争による米兵被害の半分はされることになる。ホワイト・ハウスのどんな高官も、熟考を要する要素である。

さらには熟考が必要なのは——米大統領が優先すべきものとして——、この作戦の費用である。現時点で、年末までに、五〇〇億ドルが見込まれた。

第三世界の非産油国諸国は、石油価格の上昇から大変な打撃を受けるだろう。火曜日に、サッダム・フセインは、石油価格上昇にイラクが責任を負っていないことの印として、第三世界諸

国に無料で石油を提供すると言った。

東欧も、打撃を受ける。戦後の産業開発の重責は、保健や生態学的配慮を怠ってきた。東欧の新政府は、環境汚染の浄化と石炭使用によるスマッグを出す産業の廃棄を掲げている。石油は、彼らの生命線になる予定だった。だが、石油価格が現在のように上昇したら、そうした諸

た望みの幾らかを不可能にした。EC委員長は、EC諸国が通貨を統制する欧州中央銀行の開始を一九九三年に見込んで、それを経済統合の第一段階としてきた。第三段階は——単一欧洲通貨の実現——、一九九五年から開始されるはずだった。そして、この段階で、どの政府も、一国で重要な経済的決定を下す能力を失うはずだった。

だが、週末に、EC大蔵大臣たちは、デロールの計画を拒否し、第二段階までに六年をおくとするスペインの対案がかなりの支持を得た。西独政府は、かつては、デロールの支持者だったが、彼の計画にまったくの無関心を示した。当面は、新超大国の経済土台建設を作るのに失敗したので、デロールは、ものごとの軍事的目的に注意を向けていた。そこで、彼は、ガルフ危機

れている。だが、もし、戦闘になつたら、一日で一〇億ドルかかるし、それは、ベトナムの費用の四倍から五倍という数字である。

これは、単に軍事的な統計である。本当の戦争の経済費用は、天文学的になるだろう。世界で確認されている石油埋蔵の四五%は、イラク、クウェート、サウジにあり、サウジの油田は、戦争が発生しそうな地域にある。世界の石油埋蔵量の三分の二は、中東にある。もし開戦になれば、どちらの側も、これらの埋蔵地帯を狙うであろうことは、かなりありうることだ。

一九七三年に、初めて産油国が力の行使を決意して産油を削減したが、その時、石油価格が四倍になった。一九七九年には、イラン革命の期間に、イランの産油が落ち込んで、石油価格が倍増した。

以来、現在のガルフ危機のような情勢を見越して、石油備蓄措置が取られてきた。だが、中東の石油採掘施設のうち破壊されたものがあり、石油の備蓄も枯渇していくのは、目に見えている。一九八六年には、石油は一バレル一〇ドルだった。現在、三〇ドルに近づいており、五〇ドルまであがるかもしれない。近い将来、それが実質的に下がるとは、誰も予測しない。

石油は、現代資本主義にとって基本的な燃料である。その価格上昇は、米経済にひどい影響を与えるだろう。テキサスの原油が米の需要のかなりを充たしてはいるが、一二%を中東に依存している。米の原油価格も、世界のそれと同じくらい上昇するだろし、それは、米製品価格

を押し上げざるをえなくなる。

米経済は、過去一二ヶ月間、不況のなかにさまざま、際どいところにあった。石油価格の上昇は、大量失業を作る一撃となる。そして、それが、世界の経済総体を不況の波で覆うことになる。

こうした理由から、米の政治体制は、この作戦の財政負担を他の諸国にますます肩代わりさせようとしている。「役割を果たす」のを拒否されたので、西独と日本政府に対するかなり怒りがおこっている。米の政策決定者は、西独の財政負担を他の諸国にますます肩代わりさせようとしている。「役割を果たす」のを拒否されたので、西独と日本政府に対するかなり怒りがおこっている。米の政策決定者は、西独憲法がそうした軍事行動を禁止していることや、日本の反戦感情が同様の効果をもつていていることを理解しないようだ。

これは、投資家が、高い利子を得ようとして、米銀行から日本の銀行に振り替えることを意味している。米連邦準備局は利率を上げるか——それは、不況を引き起こすだろう——、ドル切り下げかのいずれかを選択しなくてはならない。

どちらをやつても、米は、日本に敗けることになる。

過去数年間、この最強の二つの資本主義経済は、相互にひっぱりあってきた。現在、日米は、競争しており、その分裂は、もともと弱体化しているブッシュにさらなる圧力を加えるのは、必須である。

もちろん、米国のみが苦しむわけではない。

一九九〇年九月一日  
～一〇月一〇日

重要日誌

援のすべてを止めるよう要求する。日本帝国主義は、中東における米軍とガルフの反動王制を物質的に支援している。ガルフ危機への米の介入は、帝国主義の権益、石油の防衛にのみむけられたアラブの地に対する侵略である。

援のすべてを止めるよう要求する。日本帝国主義は、中東における米軍とガルフの反動王制を物質的に支援している。ガルフ危機への米の介入は、帝国主義の権益、石油の防衛にのみむけ

九月一九日(水) ら、世界の米施設を攻撃する。  
・サウジとソ連が国交樹立。  
・ブッシュ政権、対エジプト軍事債権八七億ド  
ル支給。  
・米通商政策改定。

- ・イラク大統領、八月二日声明を軸に、対話  
を呼びかける。
- ・シリア副大統領カッダム発言・要請受ければ、  
シリア軍増援の用意あり。

九月二〇日（木）ル帳消し計画発表。

- ・エジプト国防筋発表・今週末までに、計二万の部隊と戦車三〇〇台をサウジ配備予定。
- ・ヨルダン、モロッコ、アルジェリア首脳会談。

九月二二日（土）

- ・ブッシュ、新空軍参謀長に、現太平洋軍司令官を任命。・

一〇月一日(月)  
・被占領地で、統一指導部、アピール六二号発表。  
・米海兵隊一万三〇〇〇人、オマーンで強襲上陸作戦演習開始。  
・英國のガルフ配備軍(「多国籍軍」指揮下)司令官(元SAS司令官)、記者会見。  
一〇月二日(火)

九月一三日（木）  
・ベーカー、二日間のシリア訪問開始。  
九月一四日（金）  
・英政府、サウジへの陸上部隊派遣決定（六〇〇人の機甲化部隊）。  
九月一五日（土）

- ・イラク大統領TV演説・攻撃をしかけられた場合、中東の油田とイスラエルを攻撃する。
- ・米政府筋、四方向からのイラク攻撃作戦計画発表。

（水）  
・ソ連軍司令官記者会見・国連の許可なく、武力行使に反対。  
・イラン外相発言・軍事介入、一切しない。

（木）  
・イラク第一副首相、ヨルダン訪問。海部とも

② N D F (国民民主戦線) 国際事務所声明  
一九九〇年九月三日

ガルフにおける米帝主導の戦争準備態勢に反対する

我々フィリピンのN D Fは、ガルフにおける米帝主導の大規模な軍事力量蓄積と、ワシントン、その他の西側から発している戦争の恫喝を弾劾する。

米軍が、ガルフに数万の軍隊を配備し、殺人的なハイテク戦争機械を配置しているが、これは、「外科的な」手術によって、サッダム・フセインを除去しようとの米の政治目的を実行するための攻撃的な作戦をもくろんでいるものである。急速に軍事力量を投入したのも、あえて、アラブや中東諸国の石油や他の重要な資源に対する米の支配に抵抗するアラブ人民や、その他の人々をテロで押さえるためである。米は、無情にも、国連安保理會議を利用して、一方的な介入政策を合法化しようとしている。

② N D F (國民民主戰線) 国際事務所声明  
一九九〇年九月三日

力量の投入は、成功の見込みのある包括的解決を追求するのを阻害し、戦争の危険性を増大させているが、それは、壊滅的な結果になるにちがいない。歴史は、グレナダ、リビア、レバノン、フィリピン、その他の諸国への野蛮な介入

アキノ政府は米の中東政策を支持しているが、これは、数万にのぼるフィリピン契約労働者の安全を重大な危機に曝している。我々は、危機で影響を受けたフィリピン労働者の安全と権利を確保するために不十分な措置しかとていてない、マニラ政府に連絡するにこゝに、マニラの当局

力量の投入は、成功の見込みのある包括的解決を追求するのを阻害し、戦争の危険性を増大させているが、それは、壊滅的な結果になるにちがいない。歴史は、グレナダ、リビア、レバノン、フィリピン、その他の諸国への野蛮な介入を偽装するために、恥ずべきにも、米が「国際法」と「原則」を持ち出してきたことを示している。中東における地域のヘゲモニーを目指した米ーイスラエルの戦略同盟、イスラエルの領土拡張主義、核兵器所有、インティファーダに対する野蛮な弾圧への米の支持、これらは、中東とガルフに対する米の眞の意図を明らかにしている。つまり、恒常的な外交、政治、軍事圧力をもってアラブ人民を弱体化させ、分断することによって、安価な石油を統制し、保持すること、これが米の眞の意図である。

一方、我々は、ガルフ危機に対して外国の介入抜きにアラブで解決していくとするアラブ・イニシアチブを歓迎し、支持する。米の非妥協さをものともせず、平和を主張する人々は、ガルフ危機の包括的政治解決の望みを提出している。

赤軍声明

声明  
一〇月五日

日本赤軍

一、我々は、日本首相海部に対し、米軍を援助してガルフ危機に介入しないよう警告する。ガルフ危機は、アラブ諸国が解決すべきアラブ内の問題である。日本政府は、アラブ民族

機が引き起こした軍事活動の拡大は、「一步前進にとって、またとないチャンス」と水曜日に声明を発表したのである。ストラスブルグで、デロールは、ECの軍事共同の拡大を主張した。ホーリィ政府は、アイルランドの中立性を放棄せよとの圧力を二方面から受けている。政府の最近の行動は、ブッシュの言う新世界秩序に合わせていくのが大変うまいことを示している。それは、アイルランドにとっては、破局につながらるだろう。

② NDF（国民民主戦線）国際事務所声明  
ガルフにおける米帝主導の戦争準備態勢に反対する

我々フィリピンのNDFは、ガルフにおける米帝主導の大規模な軍事力量蓄積と、ワシントン、その他の西側から発していける戦争の恫喝を弾劾する。

米軍が、ガルフに数万の軍隊を配備し、殺人のハイテク戦争機械を配置しているが、これ

現在のガルフ危機に至るはるか以前から、米は、中東と他の第三世界諸国への介入を唯一の目的とするRDF（緊急展開）なるものを設置してきたことを、思い起こすべきである。米は、パレスチナの祖国やその他のアラブの地への侵略を挑発し、不法な占領をも支持している。米の姿勢とは逆に、米の政策とガルフへの軍事力量の投入は、成功の見込みのある包括的解決を追求するのを阻害し、戦争の危険性を増大させていているが、それは、壊滅的な結果になるにちがいない。歴史は、グレナダ、リビア、レバノン、フィリピン、その他の諸国への野蛮な介入を偽装するために、恥ずべきにも、米が「国際法」と「原則」を持ち出してきたことを示している。中東における地域のヘゲモニーを目指した米－イスラエルの戦略同盟、イスラエルの領土拡張主義、核兵器所有、インティファーダに対する野蛮な弾圧への米の支持、これらは、中東とガルフに対する米の眞の意図を明らかにしている。つまり、恒常的な外交、政治、軍事圧力をもってアラブ人民を弱体化させ、分断する

口実をもってしても、ガルフの軍事作戦の出撃基地としてフィリピンの米軍事基地を使用するのを許可しないようとの警告を再確認する。基地のそうした使用はいかなるものであれ、フィリピン人民が断固として反対しているし、あの強力な政府がそれらの基地の即時解体にさらなる弾みをつけるものだ。

会談。

一〇月六日(土)

・米政府、米国人に、中東、とくにエルサレムへの旅行を控えるよう勧告。

一〇月七日(日)

・仮首相、仮軍は参戦しないと発言。

一〇月八日(月)

・エルサレムで、パレスチナ人二三人が虐殺され、ガザでも二人殺される。

・サウジ配備エジプト軍司令官発言・イラク攻撃には、エジプト軍は参加しない。

・サウジ配備シリリア軍司令官も同主旨の発言。

一〇月九日(火)蜂起、三五カ月目に入る

・中山、シリア訪問。

一〇月一〇日(水)

・マグレブ諸国と伊、西独等一〇カ国首脳会議。

### 編集後記

党内にも反対の声があり、分裂しているようですが)。

・イラク内部に残つて、「人質」となつてゐる人たちこそいい迷惑でしよう。こちらでは、毎日、「イラク、クウェートにいる日本人のみなさんへ」と題する国内の親族からのメッセージをNHKの電波に乗せられて聞かされ、その人々への同情と政府への腹立ちの連続です。彼らは、日帝のとんちんかんな政治展開の犠牲以外のなものでもないことを彼ら自身がよく知つていいことでしょう。

・こちらの人々は、今でも熱烈なイラクびいきです。アメリカが軍を増強すればするほど反米意識はますます高まっています。戦争が全面化するか否かは、アメリカの決意次第ですが、長引けば長引くほど、アメリカは自滅の道を歩んでいるようです。

このままいけば、日帝も道連れになりそうですね。道連れを覚悟して、「国際化」という名の「軍国主義化」を進めようとしていくのでしょうか。

ベルリンの壁が民衆の手で破壊されてから一年数カ月がたつた。この間情況の激変と展開の激変に眼をみはり、多くのことを体験し、多くのことを学んだ。東西ドイツは統一し、アメリカ・カナダを含む三四カ国が一堂に会しパリ一憲章に調印した。二世紀に向けた歴史的里程碑となると歌い上げられている。なぜかあるいは当然のこととか、日本は蚊帳の外である。

あと一〇数日で新しい年を迎える。アラブは遠い。この号がアラブに着く頃は新年か。アラブ在編集子の「眼差し」がより輝く新しい年でありますように。

— 東京後記 —

☆

・日々、寒さのつづつくるなかで、ここ中東では、熱い戦争の緊張がさらに高まっています。日本でも、平穏な日々のなかに、突然のように「自衛隊派遣」と「即位の礼」、「大嘗祭」にむけた戒厳的状況が生まれているようです。でも、それは、突然のことでも、偶然のことでもなく、必然的なことにちがいないのです。なぜなら、それは、日本帝国主義の望んでいることだからです(「自衛隊派遣」については、自民

ギーで吹き飛ぶことを遠くから夢見ています。なんばのもんじやですね。

東京後記